

## 10の講義内容 お話の構成を紡ぎ出す―表現されたものをどう使えるか

四コマ漫画は、「起承転結」

童謡「どんぐりこ」も「起承転結」

どんぐり ころころ **ぶりこ** 起

おいけに はまって さあたいへん 承

どじようが できて こんにちは 転

**ぼ**つちゃん いっしょに あそびましょ 結 ※パロディ化

※起…書き出しを短くする。

※承…指示語や接続語は用いない。書きことばを用いる。

※転…原因・理由を明確にする。対照的な構造を組み立てる。

※結…丁寧に説明する。心情妙趣を取り入れる。

何度も繰り返し「書くこと」が上達につながる。〔最低でも三〇日〕

一五〇字で書く文の魅力を身につけて行こう。

思い出そう「五章段」の文

「キーワード」を付けていこう

「ことば遊び」連想式の文章

白いはうさぎ うさぎははねる はねるはかえる かえるは 青い あおいは胡瓜 胡瓜は長い  
長いはへび 蛇はこわい 怖いは幽霊 幽霊は消える 消えるは電気 電気は光る 光るは親仁  
のハゲ頭

この連想式の文章は、「ことば」と「ことば」の類似を頭に思い浮かべてつなげていく。メモノ―トに書き綴る方法はこれを利用する。

①いろは式：「いろはにほへと」の七区分

②五〇音式：「あかさたなはまやらわ」の十区分

③アルファベット式：A/B/C/D/E/F/G/H/I/J/K・Lの十二区分〔AL式〕

④和歌・俳句式：「五七五七七」の五区分

④意義分類式：「事象」項目による十三区分

- 1, 天象・ 2, 地儀・ 3, 時候〔春・夏・秋・冬〕・ 4, 家屋・ 5, 人倫・ 6, 支體
- (病症)・ 7, 氣形〔禽・獸・蟲・魚・貝〕・ 8, 草木〔樹・竹・草・花・苔〕・ 9, 器財
- 〔船具・車具・家具・装具〕・ 10, 態藝〔喜・怒・哀・樂〕・ 11, 光彩・ 12, 數量・ 13,

言語

「使い勝手を第一義とせよ！」を合い言葉に、メモづくりに励んでみよう。私が実際に作成したメモ原稿を参考にして見て欲しい。

思いつくこと。五感のフル活用。物事の現象

←  
考える

←  
テーマのはじまり・ 要約・大意

←  
テーマの変容      二〇〇字文

←  
…メモ文を活用する

←  
テーマの確定      十行二十文字升目の原稿用紙  
…カード代わりに活用

←  
アウトラインメモ原稿カードを編成

とちりぬるを

はさまたかや

G +<sub>K</sub> +<sub>H</sub> + J + L

お手本を真似る

江戸時代から私たちは「お手本を真似る」という基本を学んできました。当時の基本テキストは、往来物と呼ばれ、寺子屋でこれが実際に行われてきたからです。今で云うと、「丸写しにする」という作業でした。すべてに氣を配って、念入りに書写することが如何に大切かを学ぶのです。それも少しずつでも良いので、とにもくにも毎日硯に向かってトレーニングすることがまず一義なのです。そのば凌ぎの作法では到底身につくことではないからです。これすなわち、修練稽古なのでしょう。ぞんざいに仕上げるのであれば誰でも可能でしょう。神経を張り巡らして微細に描き出すことでその術は自ずと見えて来ますよ！

